



協力する団体が集まつた「フードバンクながおか」の設立集会＝アオーレ長岡

長岡市内に支援重点 協力呼び掛け

「フードバンクながおか」4月発足

2021/03/25 13:00

家庭や企業で余った食品を集め、生活困窮者に提供する団体「フードバンクながおか」が4月、新潟県長岡市に発足する。フードバンクにいがた（新潟市中央区）の長岡センターとして活動してきたが、支援を必要とする家庭が増えていることから、独立して市内での活動に重点を置く。寄付やボランティアの協力を呼び掛けている。

長岡センターは、センター長の山崎一雄さん（71）を中心となり2014年に開設した。長岡を拠点に南魚沼市や十日町市などを活動エリアとし、コメや缶詰など保存できる食品を集め、生活困窮者の支援団体や東日本大震災の避難者らに寄付している。

新型コロナウイルスの影響が拡大した昨年3月には、長岡市内のひとり親の子育て世帯に毎月コメ5キロを贈る活動を始めた。当初の登録者は50世帯だったが、今年2月には110世帯に倍増した。新型ウイルス禍で困窮する世帯が増えているとみられる。

4、5人のスタッフで活動してきたが、活動範囲が広いという課題がより深刻になったことから、フードバンクながおかを設立し、市内での支援に集中することにした。市外の活動は、各地の社会福祉協議会に協力してもらう。

今後は企業や団体との連携を強化し、ひとり親世帯へのコメ支援は200世帯を目指す。自ら運営資金や人手を確保し、他のフードバンクとの情報共有や連携も続ける。

今月17日にアオーレ長岡で開いた設立集会には、市社協や関連団体の約30人が参加。フードバンクながおかのスタッフ7人を紹介し、会員登録や寄付、ボランティアへの協力を呼び掛けた。代表に就任する山崎さんは「食品を配る支援は手段の一つ。困っている人や、行政の福祉が届いていない人に、手を差し伸べたい」と語った。